

日経IR・投資フェア2017 会社説明会



コスモ・バイオ株式会社

(証券コード：3386)

2017.8.25-26

www.cosmobio.co.jp




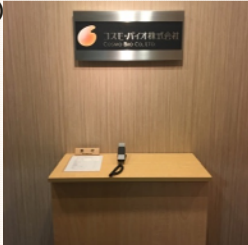
© 2017 Cosmo Bio Co., Ltd.

1

会社概要



人と科学のステキな未来へ
コスモ・バイオ株式会社

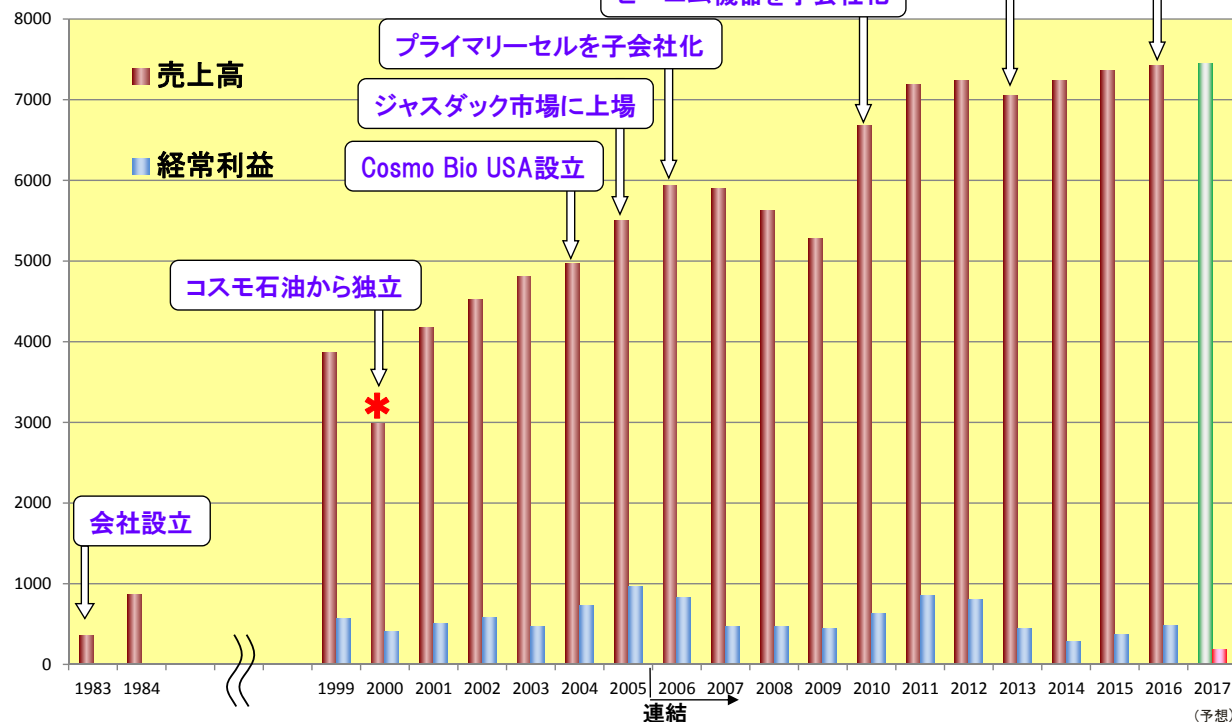
社名：	コスモ・バイオ株式会社	
本社所在地：	東京都江東区東陽二丁目2番20号	
代表者：	代表取締役社長 櫻井 治久	
設立：	1983年8月25日	
資本金：	918百万円	
事業内容：	ライフサイエンスに関する研究用試薬、機器、 臨床検査薬の仕入（一部自社製造）及び国内・海外販売	
従業員数：	連結：128名 個別：100名 (2017年6月30日時点)	
連結子会社：	ビーエム機器株式会社	
非連結子会社：	COSMO BIO USA, INC. 株式会社プロテインテック・ジャパン	

© 2017 Cosmo Bio Co., Ltd.

2

当社の歩み

売上高(百万円)



* (2000年は4-12月の9ヶ月決算)

コスモ・バイオは何をしている会社？

ライフサイエンス研究



• ライフサイエンス研究は・・・

医療分野だけでなく、私たちの生活を支える経済や社会の発展にも大きく役立っています。

コスモ・バイオは
研究に必要な
薬品 (= 試薬) や
**実験道具 (= 機器、
消耗品)** を
世界各国から種類豊富に取り揃えて、ライフサイエンス研究を支援しています。

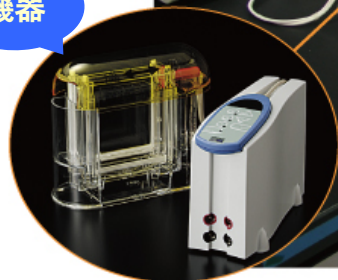
取扱商品の一例

試薬



培地、緩衝液など

機器



小型実験機器

試薬



キット(試薬セット)

試薬

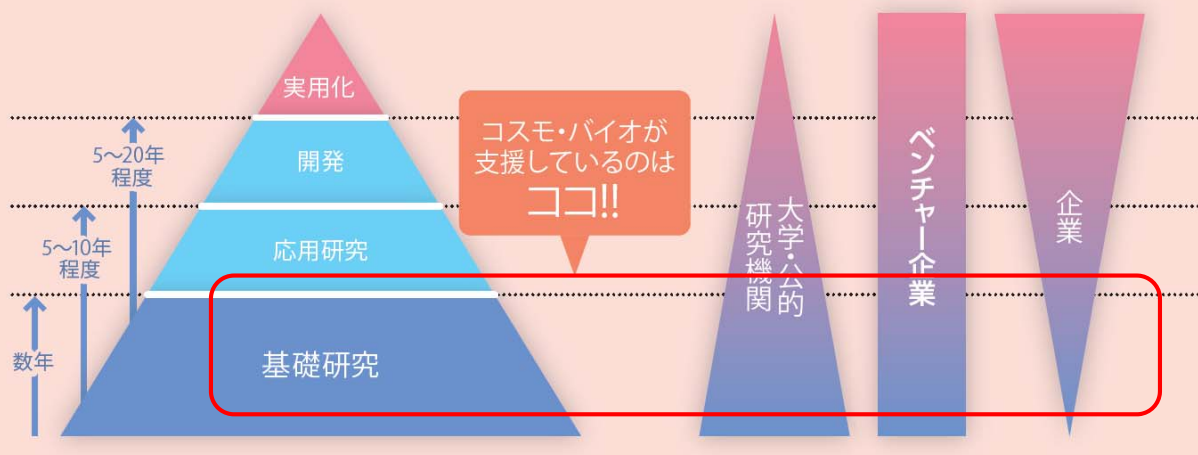


抗体・生理活性物質など

ライフサイエンス研究とユーザー層 -1

➤ 研究ステップ

➤ 各研究ステップの研究機関(ユーザー層)



ライフサイエンスの技術が実用化されるまでには
とても長い年月がかかっています。
コスモ・バイオはその研究の第一歩である、「基礎研究」を行う
研究者向けに、研究用試薬・機器を販売しています。

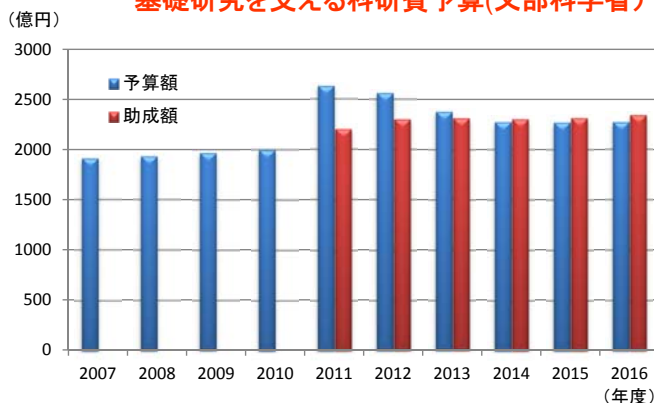
大学

公的研究機関

理化学研究所(文科省)
産業技術総合研究所(経産省)
医薬基盤・健康・栄養研究所(厚労省)
...

- 国から提供される
 - 運営交付金
 - 競争的資金(例: 文部科学省の科研費)
- などの資金をもとに研究活動を行う。

基礎研究を支える科研費予算(文部科学省)



企業

製薬会社、食品会社、化粧品会社、ベンチャー企業、...

- 各企業の事業計画や開発プランなどに基づき、**基礎研究にどのくらい「投資」**するかの予算が組まれ、その資金をもとに研究活動を行う。



事業の内容 - 商流 -

研究者と仕入先を結ぶ
コスモ・バイオ



取扱い数
約1300万品目



取り扱い商品：研究用試薬・機器

事業の内容 – 商社機能・メーカー機能 –

商社機能

世界中の約**600社**の仕入先



世界各地にある最先端の商品を安心・安全に
研究者の皆様に提供

メーカー機能



札幌事業部にて
自社品の開発・製造
自社受託サービスの提供

自ら作る、サービスを提供する
ことでソリューションを提供

研究者に最新の商品とサービスでソリューションを提供

事業の内容 – コスモ・バイオの役割 –

●膨大な商品と多彩なユーザーニーズの「マッチング」

世界のメーカーから仕入れる膨大な商品ラインアップ（＝シーズ）の中から、研究者にとって有用な商品（＝ニーズ）を選び出し、タイムリーにお届けする。商品とユーザーの「マッチング」こそが、最も重要な私たちの役割であり真髄。これを実現させ、商品購入前のお問い合わせから購入後のフォローまで、迅速かつ丁寧に対応。



●適切な温度管理

試薬の多くは、タンパク質や核酸・細胞など、生物由来の物質、いわゆるナマモノであり、仕入から保管、お届けまで厳重な温度管理が必要。各種温度帯を備えた倉庫、入出荷ノウハウにより、適切な温度管理で商品をお届け。



●関係法令・規制

◆動物検疫

商品が動物由来、もしくは動物由来の成分を含む場合、輸入・輸出の際には動物検疫対象となる。専門知識により、迅速に対応。

◆使用・保管への注意

商品には、毒劇物・薬物・危険物・遺伝子組換え物質等の、法律で取扱いが厳しく定められているもの、有機溶媒など廃棄規制があるものがあり、商品取扱いに関する情報も適切に提供。

ライフサイエンス研究市場動向

基礎研究市場においては、近年は活発さを欠いた状況であったが、2017年のバイオテクノロジー関連の政府予算、国立大学法人運営交付金については増額となる。

為替相場

為替変動により利益に影響
(円安では仕入原価・コスト高)

平均為替レートの推移 (円/ドル)

2014年	2015年	2016年	2017年 予想
106円	121円	111円	115円

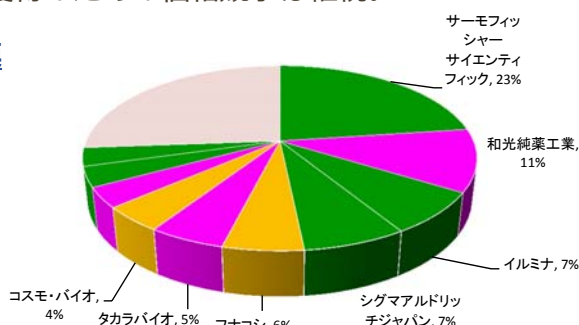
競合会社

市場の伸び悩みに伴い、シェア獲得のための価格競争は継続。

ライフサイエンス研究用試薬の市場規模

◆ 競合会社のパターン ◆

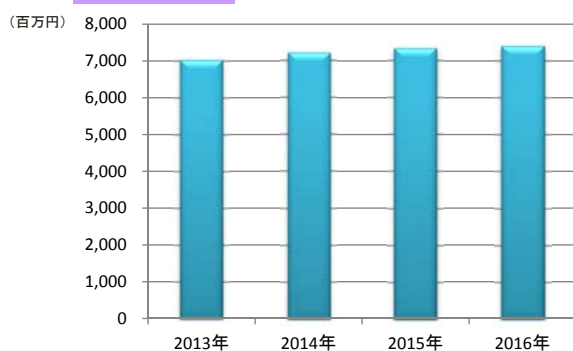
- 1 海外企業の日本法人
- 2 大手企業の子会社・部門
- 3 商社



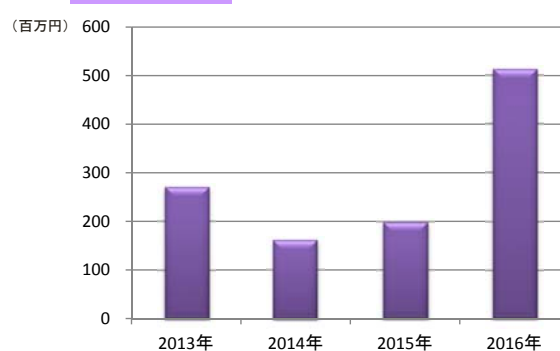
※ 矢野経済研究所調べ

業績推移

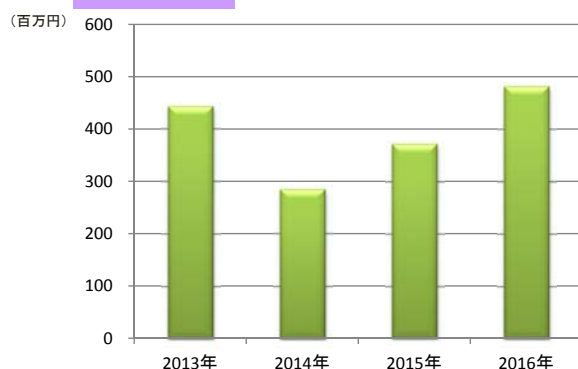
<売上高>



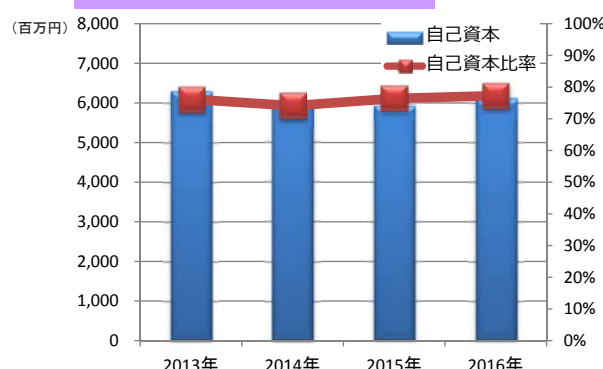
<営業利益>



<経常利益>

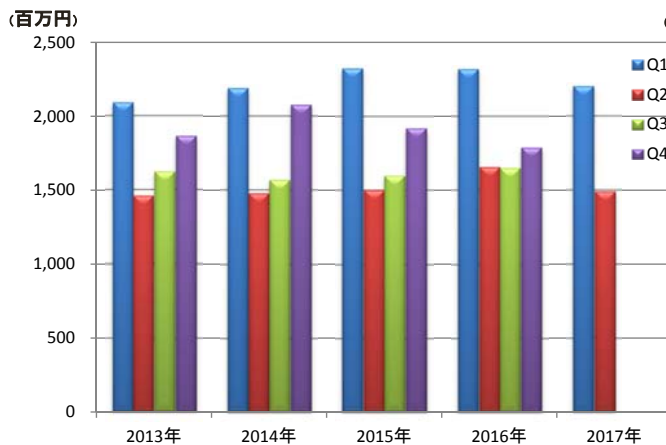


<自己資本/自己資本比率>

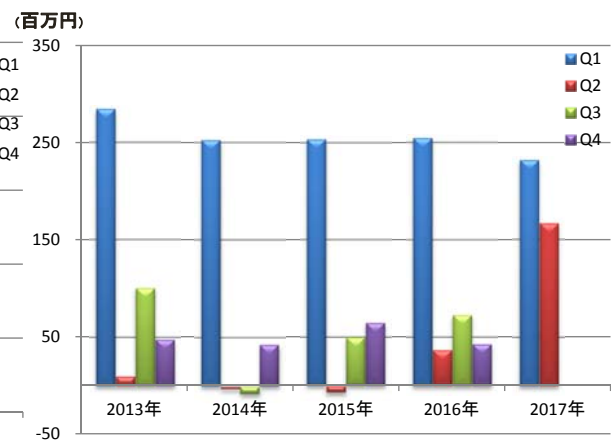


四半期別動向（売上高、経常利益）

売上高



経常利益



【売上高】従来の四半期別売上高の傾向は、Q1で最も多く、Q2以降階段状に上がってくる傾向。近年、政府予算の一部繰り越しができるようになり、この傾向も緩やかになっている。

2016年は下期に複数仕入先との取引終了があり苦戦。2017年はQ2は取引終了分の売上を取り戻せていない。

【経常利益】従来の四半期別経常利益の傾向は、Q1で最も利益を稼ぎ出す構造。

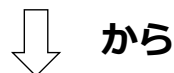
2017年は営業外収益が多く計上され、Q2大幅利益増。

2016年からの取り組み

目指す姿

これまでの

商品を**導入**し、そこに自社の生み出す「分かりやすさ」「安心・安全」を付加価値としてユーザーに**提供**するプロフェッショナル



商品提供で充足できないニーズに対し、テクニカル面も含めたソリューションサービスを**提案**するプロフェッショナル へ

将来のためにいまやるべきこと

- ✓ 既存の商社としての機能の品質を保ち、さらに向上させる
- ✓ 利益率の高い商品・サービスの比率を高める
- ✓ 「自らによるサービス+海外サービス」の比率を高める
- ✓ 「自らによる製品」の比率を高める（利益確保、為替に左右されない収益構造の確立）

2016年から始めた取り組み

商社としての基盤強化

- ① エンドユーザー訪問営業強化
- ② プロテインテック・ジャパン設立



既存事業の基盤強化

ユーザーとの繋がりを強く
メーカーとの繋がりを強く

メーカー機能の強化

- ③ ペプチド・抗体製造受託事業開始
- ④ 札幌事業拠点拡張プロジェクト



新たな事業の柱へ

自社品の製造
自社ブランドのサービス

メーカー機能の強化

目的

- 「ソリューションサービスを提案するプロフェッショナル」を目指し、自らによるサービス・製品の比率を高める
- 研究用試薬の開発のみならず、将来の事業基盤となる技術の開発に取り組む

進捗

- ペプチド・抗体製造受託事業は当初計画との大きな乖離なく順調にスタート
- 2017年10月稼働予定の札幌事業所を活用し、産総研・農研機構との共同研究成果を生かした第一弾となる製品をまもなく製造開始

従来

細胞製造を中心とした
開発・製造・
受託サービス



2016年12月

ペプチド・
抗体製造
受託サービス



更なる強化・拡大

2017年10月稼働予定



札幌事業所（小樽市）に集約・移転

2017年12月期の連結業績見通し

※8月4日に業績予想の修正を行いました。

(単位：百万円)

	16/12月期 実績	17/12月期 当初予想	17/12月期 修正予想	対前年比		(参考)
				当初予想	修正予想	17/12期 上期実績
売上高	7,427	7,500	7,200	1.0%	△3.1%	3,699
営業利益	514	115	140	△77.6%	△72.8%	206
経常利益	483	180	360	△62.8%	△25.6%	399
親会社株主に帰属 する当期純利益	254	105	230	△58.7%	△9.6%	264

平均為替レート	16/12月期 実績	17/12月期 予想
円/USドル	111円	115円 (修正なし)

* 17年上期実績 113円

売上高：下期分の予想を100百万円減額し、通期予想を7,200百万円。

営業利益：10月以降、減価償却費の増加を見込み、研究開発費の増加、事業所移転費用等を踏まえ、販管費増のため、当初予想は上回るものの前年比大幅減。下期マイナスの見込み。

経常利益：上期の出資金分配益が通年で寄与し、当初予想より大幅に上回る見込みであるが、前年比減。

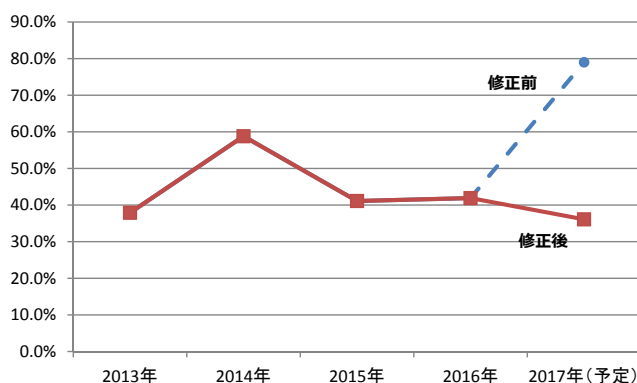
配当について

	1株当たり配当額		
	中間	期末	合計
2017年 12月期	6円	8円 (予定)	14円 (予定)

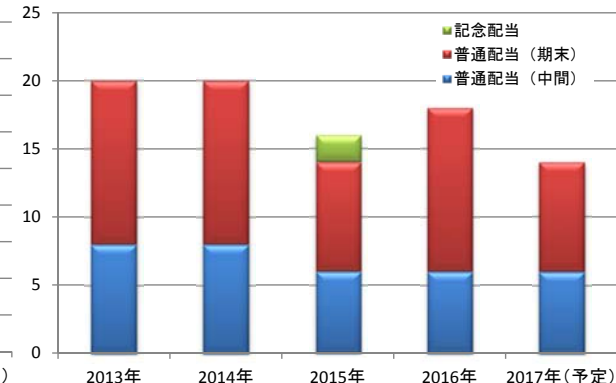
業績予想修正の結果、連結配当性向 (予定) は79.0%から36.1%に。

国際情勢による為替変動の見極めが難しいことから、現時点では配当予想の修正はなし。

連結配当性向の推移



1株当たり配当額の推移



- 本資料を作成するに当たっては、正確性を期すために慎重に行っておりますが、完全性を保障するものではありません。
- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述部分は、当社が本資料作成時点において入手可能な情報から得られた判断に基づいており、リスクや不確実性を含んでおります。実際の業績は、様々な要因により大きく異なる結果となる可能性があることをご承知おきくださいますようお願いいたします。
- 本資料は当社をご理解いただくために作成されたもので、当社株式への投資勧誘を目的としておりません。

《IRに関するお問い合わせ先》
コスモ・バイオ株式会社 総務部
ir-contact@cosmobio.co.jp

当社IRサイト
<http://www.cosmobio.co.jp/ir>

参考資料

連結損益計算書

(金額単位: 百万円)

	2016年 第2四半期 累計	2017年 第2四半期累計		前年同期比 増減	当初予想比 増減	
		当初予想	実績			
売上高	3,983	3,900	3,699	△7.1%	△5.2%	注1
売上総利益	1,432	-	1,359	△5.1%	-	注2
販管費	1,070	-	1,152	7.7%	-	注3
営業利益	362	115	206	△43.0%	79.4%	注4
経常利益	367	165	399	8.7%	141.9%	注5
親会社株主に帰属 する四半期純利益	257	105	264	2.9%	152.0%	

注1 2016年度に大口取引先との契約終了が複数件あり、マイナスとなる売上分を他商品の売上で充当する計画であったが、計画未達。

注2 粗利率は36.0%から36.7%へと改善。為替は計画115円/ドルに対し、平均113円/ドル。

注3 販管費増加は、基幹システム、ペプチド製造設備の減価償却開始、研究開発費増等。

注4 為替効果、利益率の高い商品・サービスの販売増、利益率の低い取引先との取引終了等により、営業利益は前年比減ではあるものの、当初予想を上回った。

注5 営業外収益で出資金分配益+142百万円が計上され(計画外)、予想を大幅に上まわり、またNEDO助成金+36百万円が計上され(計画内)経常利益および純利益は前年並みとなった。

(単位：百万円)

	2016年12月末	2017年6月末	増減額
資産合計	7,934	8,398	464
流動資産計	5,495	5,542	46 注1
固定資産計	2,438	2,856	418 注2
負債純資産合計	7,934	8,398	464
負債計	1,352	1,475	123
純資産計	6,581	6,923	341 注3
自己資本比率	77.3%	77.0%	

注1 現金及び預金の増加+506百万円、売上債権△297百万円、有価証券△200百万円

注2 札幌事業所に係る建設仮勘定+160百万円
投資その他の資産について、その他有価証券の時価による評価+213百万円

注3 繰延ヘッジ損益+1百万円（為替予約の差益・差損はほぼ出ていない）

『公開講座応援団』

大学等が行う公開講座に協賛し、ライフサイエンスの面白さと楽しさを伝えるお手伝いをしています



『世界一いきたい科学広場in宗像』

【講座の一例】



『iGEM生物ロボットコンテスト
参加日本チームへの支援』

米国マサチューセッツ工科大学で毎年行われている「生物ロボット」コンテストに参加する日本の大学チームを、資金援助を通して応援しています



『北海道大学』

【参加されたチームの一例】

『消化管
体験ツアー』

食道から大腸まで、子供が潜り抜けられるトンネル構造模型です



『Science Signaling』



米国科学振興協会が発行する“Science Signaling”の日本語サイトを当社ウェブ上で運営しています

株価推移 (2015/1/5~2017/8/21)

単元株数:100株

